

# 県立篠山産業高等学校 令和7年度 学校評価(自己評価)

めざすべき高等学校像(スクール・ミッション)	令和7年度重点目標
「自律 協調 不屈 創造」の理念のもと、高い志をもち、社会の急激な変化に対応できるしなやかさと、主体的に自立して生きる強さを備え、地域を担う人財として、ふるさとを愛し他者と協働して地域の様々な問題に取り組むことができる人材を育成する。	未来を切り拓く「心」ある、「イノベーション」を担い、「地域」を担うスペシャリストを育成する
育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	
(1) 地域の課題に対して興味関心を持ち、積極的に社会に参画できる生徒を育成する。 (2) 社会の急激な変化に対応できる「しなやかさ」と「強さ」を身につけた「スペシャリスト」を育成する。 (3) 工業・商業・農業に関する学科を有する県内唯一の特徴を最大限に生かし、深い学びを主体的に実践する生徒を育成する。	

学校関係者評価
○学力保障について、授業への理解力不足を感じる生徒への対応が懸念される。学校側は、授業改善をさらに図るとともに、少人数授業や補習などによるきめ細かな対応を推進する。 ○将来の夢への意識について、3年生の経年変化では「夢がない」との回答が増加傾向にあるのに対し、専門学科での学びを通じて自己肯定感を高める指導の必要性が指摘された。 ○地域貢献と学科の特色について、有機農業の推進や地域連携、資格取得の実績など、本校独自の強みをさらに外部へ発信してほしい。

学校自己評価結果( A:できている B:おおむねできている C:どちらかといえばできていない D:できていない )
A ≥ 3.3    3.2 ≥ B ≥ 2.5    2.4 ≥ C ≥ 1.6    1.6 > D

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	Instagramやホームページなど様々な方法により、教育活動を発信している。	B
		PTA、同窓会との連携	PTAや同窓会との連携し、協力体制を構築できている。	B
	各部署間の連携	各学年と各科の連携	科会や学年会などを月1回以上行い、生徒の情報などの情報共有が行われている。	B
		各科の連携	学校教育活動や地域行事を通じて各学科が互いに協力し合える関係づくりをすすめている。	B
		学習成果発表会	全校生や保護者などを対象とした、学習成果発表会を行っている。	A
	生徒指導	生徒指導体制の確立	生徒支援部と学年・専門学科の教職員が生徒面談(指導)している。	B
		生徒の内面理解にもとづく指導の工夫	いじめアンケートを年に3回および全員面談を1回実施する。	B
		生徒会活動の活性化	表彰伝達等を生徒会中心に取り組んでいる。	B
	進路指導	進路指導体制の確立	生徒の進路実現に向けて進路指導部と学年が連携し、進路行事が適切に行われている。	B
		キャリア教育の充実	進路ガイダンスが適切な時期に行われ、生徒にとって効果的な行事となっている。	B
		インターンシップの充実	インターンシップにより、望ましい職業観、勤労観が育成され、進路選択の一助となっている。	B
	教職員の資質向上	実践的指導力の育成	研究授業を各教科1回は行い、授業改善が図られている。	B
		職員研修の充実	各部主催の校内研修に半分以上の教職員が参加している。	A
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの整備	危機管理マニュアルを作成し、教職員への周知している。	B
		家庭、地域、関係機関との連携	家庭、地域、関係機関との協力体制を確立している。	B
自ら命を守る意識の定着		登校時の立ち番指導や避難訓練等を学期に1回は実施し、生徒が自ら命を守る意識を高めている。	B	
勤務時間の適正化	定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デー	定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デーの呼びかけを実践している。	B	
	ICTの活用	googleフォームなどのオンラインフォームを活用し、業務の効率化が図られている。	B	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	授業改善の取組	学習評価を踏まえた指導の改善が行われている。	B
		指導力の向上	公開授業週間を年2回行い、教員が互いに指導力を高められる機会を作っている。	A
	基礎学力と学習習慣の定着	授業や補習等の工夫	各教科において、課題や補習などを行い全体のボトムアップが図られている。	B
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の工夫	各教科において、指導と評価の一体化の工夫がなされている。	B
		指導形態の工夫	生徒の実態に応じて習熟度別授業や少人数授業が行われている。	B
	教育課程編成	教育課程編成の工夫	生徒や社会のニーズに合わせたカリキュラム編成が行われている。	B
	総合的な探究の時間	進路設計	総合的な探究の時間が生徒のキャリア発達に成果をあげている。	B
		教職員の協働体制の確立	該当学年だけでなく、他学年他分掌の教員が協力している。	B
		課題研究	各科の課題研究において総合的な学習を行い、資質・能力の育成が図られている。	B
	特別活動	計画的な実施	学校行事、ホームルーム活動が、計画性をもって実施されている。	B
部活動の活性化		生徒の主体的な活動が、合理的かつ効率的・効果的に行われている。	B	
課題教育	ふるさと貢献活動	各科の取組の充実	地域と連携した活動を通じて、生徒の自己有用感や地域を支えていく意識を高揚させている。	B
		ボランティア活動の充実	学校教育活動や部活動を通じて地域行事に参加し、生徒の奉仕の精神を高めている。	B
	特別支援教育	通級指導体制の確立	通級指導に対する教職員の理解を図るとともに、指導体制が図られている。	B
		支援体制の確立	特別な支援が必要な生徒に対して、支援体制が図られている。	B
	人権教育	人権意識の高揚	学校教育全体を通じて、計画的に生徒の人権意識を高揚させている。	B
グローバル教育	外国人との交流	ALTの授業やワラワラからの使節団の受け入れを通して他国の文化に触れ、生徒の国際的な視野を広げている。	B	
勤務実態	働き方改革	学校としての取り組み	月に1回以上、分掌や学年会議を実施している。	A
		個人として取り組み	校内共有フォルダーを整理整頓して円滑に従事できている。	B